自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000300	事業の開始年月日	平成22年8月1日	
事 未 別 笛 々	1492000300	指定年月日	令和5年10月1日	
法 人 名	湘南乃えん株式会社			
事 業 所 名	湘央グループホームえ	ل ل		
所 在 地	(254-0051) 神奈川県平塚市豊原町14-17			
サービス種別 定 員 等	定員 計 ■ 認知症対応型共同生活介護 エニット数		,,	
自己評価作成日	令和7年5月24日	評 価 結 果 市町村受理日	令和7年8月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても、個々の生活習慣を大切にしながら、これまでできていたことが継続して出来るように、日常生活のあらゆる時間のサポートをします。

住み慣れた地域の中で豊かな人間関係を築き支えあう暮らしの実現を目指します。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評 価 機 関 名		1 名		株式会社フィールズ	
所 在 地		地	251-0024 神奈川県	藤沢市鵠沼橘1-2-7 藤	沢トーセイビル3階
訪問	引調 査	日	令和7年7月2日	評 価 機 関 評 価 決 定 日	令和7年7月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<優れている点>

経営理念と5つの行動指針に基づき、入居者が「できることをあきらめず笑顔を大 切に」し、人生の最期まで自分らしく充実した生活を送れるよう支援しています。 入居者の社会参加と地域とのつながりを深めることを目的に、毎週のボランティア や、看護専門学校実習生の受け入れを実施しています。ひらつか地域介護システム 会議グループホーム連絡会と小規模多機能連絡会が主催する、「認知症のある人が 社会と繋がり、役割を持つことの喜びを感じられる機会を提供するとともに、地域 の人に認知症への理解を深めること」を目的として開催された「注文を間違える陽 だまりレストラン」への参加を支援しています。席の案内や、料理やドリンクの オーダー、食事の配膳なども行い、入居者の社会参加の機会になっています。「未 来の福祉」の理念のもと、施設ユニットドア、玄関の施錠を行わず、身体拘束を廃 |止し、入居者個々の尊厳と主体性を尊重したケアを実践しています。転倒リスクの |ある人にも「自分の意思でトイレに行く」ことを重視し、廊下の手すりと手すりの 間の空間に、複数のイスを設置し、自身の意思でトイレに移動できる動線を作って |います。「介護の常識は一般の非常識」と常に未来の介護のあり方を模索し、「今 行っている介護は、未来も常識として通じている介護なのか」を意識し支援に努め ています。

<工夫点>

入居者の生活環境と尊厳を大切にしています。五感の中でも特に嗅覚と触覚が、記憶や感情と密接に結びついていることから、入居者が以前の自宅で使っていた枕、 毛布、食器、財布などの持ち込みを推奨し、個人の空間でも安心して過ごしてもら えるような工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	$23 \sim 35$	$12 \sim 16$
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	$36 \sim 55$	$17 \sim 23$
V アウトカム項目	56 ∼ 68	

事業所名	湘央グループホームえん
ユニット名	ユニット1F

V	アウトカム項目		
56			1, ほぼ全ての利用者の
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の		2, 利用者の2/3くらいの
	意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	0	3. 利用者の1/3くらいの
	(5 5 7 11 1 - 1 7 - 1 7 - 1 7		4. ほとんど掴んでいない
57			1, 毎日ある
	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。		2,数日に1回程度ある
	(参考項目:18,38)	0	3. たまにある
	(2 3) [10, 00,		4. ほとんどない
58	和田 大川	0	1, ほぼ全ての利用者が
	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。		2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目:38)		3. 利用者の1/3くらいが
	,		4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
		0	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
	, ,		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけ		1, ほぼ全ての利用者が
	利用有は、アパッ打さんいところ、田川州 ている。		2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目:49)	0	3. 利用者の1/3くらいが
2.1			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不		1, ほぼ全ての利用者が
	安なく過ごせている。	0	2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目:30,31)		3. 利用者の1/3くらいが
00			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた		1, ほぼ全ての利用者が
	柔軟な支援により、安心して暮らせてい	0	2, 利用者の2/3くらいが
	る。		3. 利用者の1/3くらいが
	(参考項目:28)		4. ほとんどいない

63			1, ほぼ全ての家族と
	職員は、家族が困っていること、不安な	0	2, 家族の2/3くらいと
	こと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。		3. 家族の1/3くらいと
	(参考項目:9,10,19)		4. ほとんどできていない
64			1, ほぼ毎日のように
	通いの場やグループホームに馴染みの人 や地域の人々が訪ねて来ている。	\circ	2,数日に1回程度ある
	(参考項目:9,10,19)		3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのでなどはの特別にある。		1,大いに増えている
	の関係者とのつながりの拡がりや深まり があり、事業所の理解者や応援者が増え	0	2, 少しずつ増えている
	ている。		3. あまり増えていない
	(参考項目:4)		4. 全くいない
66	1199 日 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1		1, ほぼ全ての職員が
	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	\circ	2, 職員の2/3くらいが
	(多句:4日:11,12)		3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	1981日) トロマー 化田型 ロローン・コート ト		1, ほぼ全ての利用者が
	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う。	0	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68			1, ほぼ全ての家族等が
	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	0	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自	外		自己評価	外部評価			
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容		
Ι	理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。		法人理念「真の幸福を探求し、未来の福祉を創造する」と行動指針「5つのえん」を 運営の柱にしています。管理者は普段から 職員に理念が示す意味と行動指針について 具体例を挙げながら説明しています。毎月 の会議でも議題にするなど全職員で共有し ています。			
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している。	ている。	町内会夏祭りへ利用者が参加できるように 支援するとともに、町内福祉村での事業所 行事へ地域住民を招いて交流しています。 毎週、事業所内の片づけボランティアや歌 唱ボランティアを受け入れ、今年度初めて 看護専門学校の実習生を受け入れるなど地 域と積極的に関わっています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている。					
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい る。	年6回実施。運営推進会議を実施し、家族代表などに報告を行っている。	利用者家族、自治会長または民生委員、地域包括支援センターの出席のもと開催しています。家族から離設事故について「詳細を誰に確認すればいいかわからない」との意見があり、時系列での行動手順と担当者を定めた離設事故マニュアルを新たに作成し、報告した事例があります。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	を行っている。	介護保険課とは状況により連絡・相談をしています。平塚市主催の介護事業所で構成される「ひらつか地域介護システム会議」の会員です。「グループホーム連絡会」の合同企画「注文を間違える陽だまりレストラン」には利用者3名が参加し、約200名の来店客がありました。			

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。		「昔の当たり前が、今の当たり前なのか」 「介護の常識は世間の非常識」という視点 から、現在のケアが本当に利用者のために なっているのかを常に問い直し、柔軟な発 想でより良い介護を追求する姿勢に努めて います。介護士本意の「しょうがないで終 わらせないケア」「不快な思いをさせない ケア」を実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止 に努めている。	'd o	管理者は、「こう言われたからやるのではなく、こうするとより良くなるんじゃないかな?」と、職員一人ひとりに柔軟な発想と行動を促しています。毎日のケアで、「嫌なことをしないのが当たり前」を実践して利用者がその人らしく生活できるよう支援しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を 関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援 している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家 族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理 解・納得を図っている。	管理者が契約書や重説の説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反 映させている。	家族が相談や報告を出来るよう、重説 の中に電話番号を記載し、窓口は計画 作成担当者が担っている。	家族とは電話やメール、SNSなどで密に連絡しています。毎月入居者の近況や小遣いの使用状況を写真を付けて送付しています。対面で話が出来る懇親会を敬老の日に予定しています。家族から質問を受けた「離設」について改善し報告した事例があります。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。		全職員は災害・感染・身体拘束・虐待防止などの各委員会に属しています。毎月のユニット会議で各委員会の報告と意見を聞く機会を設けています。管理者は会議の他にも随時相談に応じています。褥瘡対策としてエアマットを職員の提案で導入した事例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている。		多項目の自己評価と他者評価からなるOJT 評価シートを使い、年に1回面談を実施 し、実績や力量を把握しています。OJT評 価が給与に、貢献度評価シートが賞与に反 映されることで能力の向上を促していま す。介護記録ソフトを導入して業務の効率 化を図っています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている。		事業所内研修の結果報告書に、受講者が研修を受けて大切だと感じたことを自分の言葉でコメントすることで、理解を深めています。OJT評価シートや貢献度評価シートを活用し、自己評価と他者評価を定期的に繰り返し実施することにより職員一人ひとりの能力向上を促しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取組みをしている。	管理者は他事業所の管理者と交流する機会を設けている。 職員は3年目・7年目研修で交流を図る機会を設けている。		
П	安	心と信頼に向けた関係づくりと支援	-		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは手伝ってもらい、食事作りや洗濯の手伝いに参加していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。			
20	11		馴染みの方からの面会希望があった際 は受け入れている。	社会とのつながりを大切に支援しています。家族や友人の訪問を受け入れて一緒に外出する人もいます。毎月外食する人もいます。平塚七夕祭りには職員体制を整え、移動手段や見学方法などを事前に準備し、事故のないよう少人数に分けて支援しています。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めてい る。	電話での相談を受けた場合は対応している。		
Ш	そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている。	で 闘き取りを行っている	その人がどういう生活を望んでいるのか、 を重点にプランニングしています。利用者 の趣味や思考を把握するように努めていま す。入浴中、屋外歩行訓練中、寝入りばな など、日々の業務の中でコミュニケーショ ンを取りながら、利用者の話を聞き、思い を汲み取ることに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている。	アセスメントや計画書を作成する段階 で、聞き取りを行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		「自分でできることは自分で」という自立 支援の理念に基づき、排泄介助での手すり 代わりのイスの設置や、入浴介助での見守 り・部分介助など、ケアプランの内容を具 体的な支援内容に落とし込んでいます。例 えば、「運動機能の向上」という目標に対 し、「午前中に散歩、午後に階段昇降」と いった具体的な活動をユニット内で話し合 い、実践しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28			治医に連絡を取り、計画書の変更を 行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30		○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援してい る。	かかりつけ医と連携し、状況が変わった際には、報告・相談を行っている。	家族が付き添えない場合や、どの医療機関を選べば良いか分からない場合に、施設から複数の連携医療機関を提案し、家族が最終決定できるようにしています。口腔ケアを重視し、磨き残し、歯の痛み、歯周炎予防などのために、歯科医師の来訪もあります。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めている。又 は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ くりを行っている。			
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる。		利用者へのきめ細やかな対応を心掛けています。看取り時は、家族・医療機関・職員が連携し、最期を必定で迎えるか話しい、医療的処置の検討にも対応しています。夜勤時など、職員が一人で判断に迷わないよう、「こうなったら電話する」といった具体的な事を設け、急変時の出いた具体制や職員の口腔ケアや、身体機能低下への個別介助に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実 践力を身に付けている。			
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるとと もに、地域との協力体制を築いている。	認を行っている。	災害対策として、有料の安否確認システムを導入し、年に1回、全職員を対象とした 安否確認訓練を実施することで、災害発生 時に職員の安否確認を迅速に行える体制を 整えています。利用者個別の安否確認カー ドを作成し、災害時に利用者情報が共有で きるよう準備を進めています。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV	そ	の人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	不適切なケアが行われていないかを、 虐待防止委員会が定期的に確認してい る。	今年度から、法令研修の一環として、プライバシーや個人情報保護に関する研修を強化しています。動画研修を活用し、職員が個人情報保護の重要性を理解し、適切な取り扱いができるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを図り、聞き取り や促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している。	指示ではなく伺いを立て行動するよう に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している。	伺いを立て、本人に洋服を選んでもら うよう、努めている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている。		食事介助において、利用者のペースを尊重 し、急かさずに食事を楽しめるよう配慮し ています。食べ残しがあった場合は、硬 さ、味、過去の経験などからその理由を確 認し、個々の嗜好に合わせた食事提供がで きるよう努めています。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている。	食材配送業者に依頼し、栄養バランスの取れた献立を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている。	食後の口腔ケアの声掛けを行ってい る。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立に向けた支援を行ってい る。	排泄記録を作成し、パターンの把握に 努めている。	利用者の自立支援を重視し、排泄介助においても「自分でできることは自分で」という考え方を大切にしています。利用者の「自分でトイレに行きたい」という意思を尊重し、転倒リスクのある人には、居室からトイレまでの動線に手すりと手すりのにイスを設置し、掴まりながら移動できるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。		他者の目に触れないよう最大限配慮し、怪我のないよう細心の注意を払った入浴介助を徹底しています。できることは利用者自身に行ってもらい、必要に応じて職員がサポートしています。浴槽をまたぐのが難しい人にはシャワー浴の際のタオルを温めるなど、個別の工夫をしています。	

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46			就寝時間は定めず、本人の望む時間に 就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。			
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行事の提案・実施をしている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。		外出支援は社会参加の機会として取り組んでいます。利用者自身の希望に応じて、自身が小遣いから好きなものを購入することで、社会参加を実感できる機会を創出しています。移動販売のパン屋での買い物や、職員との同行による外出、外食なども行っています。地域の平塚七夕祭りの参加も、車の移動で熱中症対策を行い、安全に配慮しながら実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援している。	移動パン屋を活用し、お金を使えるように支援している。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を まねくような刺激(音、光、色、広さ、温度な ど)がないように配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。		箸や茶碗なども持ち込んでもらい「ここは 私の居場所なんだ」と思ってもらえる安心 できる環境づくりに努めています。利用者 の相性など、快適性やトラブル防止に考慮 し配席を決めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる。		使い慣れた家具や私物の持ち込みを推奨 し、利用者が安心できる空間作りを心がけ ています。特に、匂いや触感など五感を刺 激するものが、利用者の精神的な安定に繋 がると考え枕や毛布など寝具の持ち込みも 家族に伝えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している。	場所などが把握できるように対応している。		

事業所名	湘央グループホームえん
ユニット名	ユニット2F

V	アウトカム項目		
56			1, ほぼ全ての利用者の
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の		2, 利用者の2/3くらいの
	意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	0	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57			1, 毎日ある
	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。		2,数日に1回程度ある
	画がめる。 (参考項目:18, 38)	0	3. たまにある
	(2)7-81 . 10, 30)		4. ほとんどない
58		0	1, ほぼ全ての利用者が
	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。		2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目:38)		3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
		0	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利田老は、言从の行されいしてて。 川ふけ		1, ほぼ全ての利用者が
	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。		2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目: 49)	0	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不		1, ほぼ全ての利用者が
	利用有は、健康管理や医療面、女主面で不 安なく過ごせている。	0	2, 利用者の2/3くらいが
	(参考項目:30,31)		3. 利用者の1/3くらいが
0.7			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた		1, ほぼ全ての利用者が
	柔軟な支援により、安心して暮らせてい	0	2, 利用者の2/3くらいが
	る。		3. 利用者の1/3くらいが
	(参考項目:28)		4. ほとんどいない

家族と
くらいと
くらいと
きていない
ように
呈度ある
: \
ている
えている
ていない
١
職員が
くらいが
くらいが
ない
利用者が
′3くらいが
′3くらいが
ない
家族等が
′3くらいが
′3くらいが
ない

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I	理	- 念に基づく運営			
1		○理念の共有と実践地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	面談や会議の中で共有できるように 図っている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。			
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい る。	年6回実施。運営推進会議を実施し、家族代表などに報告を行っている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主任が主体となり、行政への連絡相談を行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止 に努めている。	0		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を 関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援 している。	<i>'</i> ∂₀		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家 族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理 解・納得を図っている。			
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反 映させている。	家族が相談や報告を出来るよう、重説 の中に電話番号を記載し、窓口は計画 作成担当者が担っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている。	選択研修や法令研修に参加し、知識の向上を図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取組みをしている。	管理者は他事業所の管理者と交流する機会を設けている。職員は3年目・7年目研修で交流を図る機会を設けている。		
П	安	心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは手伝ってもらい、食事作りや洗濯の手伝いに参加していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方からの面会希望があった際 は受け入れている。		

自	外		自己評価	外部評価	İ
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めてい る。			
Ш	そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントや計画書を作成する段階 で、聞き取りを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている。	電子記録を用い、日々の記録をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	アセスメントや計画書を作成する段階で、聞き取りを行っている。 また状況が変わった際には、家族・主 治医に連絡を取り、計画書の変更を 行っている。		
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30		○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援してい る。	かかりつけ医と連携し、状況が変わった際には、報告・相談を行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り、情報収集を行っている。			
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実 践力を身に付けている。	主治医や主任・管理者へ報告し、指示を仰いでいる。			
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるとと もに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施し、避難経路などの確認を行っている。			

自	外		自己評価	外部評価	
三評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV	そ	- の人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを図り、聞き取り や促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している。	指示ではなく伺いを立て行動するよう に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している。	伺いを立て、本人に洋服を選んでもら うよう、努めている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている。			

自	外	1	自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている。	食材配送業者に依頼し、栄養バランス の取れた献立を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている。	食後の口腔ケアの声掛けを行っている。		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立に向けた支援を行ってい る。	排泄記録を作成し、パターンの把握に 努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる。	声掛けを行い、入浴にお誘いをしている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行事の提案・実施をしている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援している。	移動パン屋を活用し、お金を使えるように支援している。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を まねくような刺激(音、光、色、広さ、温度な ど)がないように配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。	空調の設定を行い環境整備を実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている。	居室と共有空間の行き来を自由に出来 るようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している。	場所などが把握できるように対応している。		

事業所名 湘央グループホームえん 作成日:2025年 8月15日

優先 順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	研修に関して、主任や管理者が指摘を し、研修を受けている。	研修に関して、自ら足りないと考える 知識を考え、研修することが出来る。	面談を適切に行い、職員が足りていない部分を見つけることが出来る。	12ヶ月
2	23	意向の確認をしているが、提供できていない状況もある。		計画書を基にサービス提供する事を徹底する。	12ヶ月
3					
4					
5					